

大学院教育

研究者と社会から求められる高度職業人を輩出する

【ビジョン】

<文系>

(研究者輩出)

本大学は研究者の輩出においてこれまで高い実績を残しており、今後も大学のステイタスを維持・発展させるために研究者輩出は必須である。しかし、優秀な人材の獲得が困難な現状を考えれば、早期卒業制度の活用、授業料の減免や奨学金の充実、海外留学による学位取得への経済的支援、教育経験を積み実績を高めるための機会の拡充、キャリアパスの可視化、といった多角的で手厚い支援が前提にならざるを得ない。このため、財政面からも博士課程進学者は優秀な少数の人材に絞り込むとともに、研究者輩出の実績に基づく競争的な資源配分が不可欠となる。また、博士課程進学者の高い質を確保するためには、修士課程での競争が必須であり、一定の母数が形成されることも前提となる。

(高度職業人養成)

修士課程では専門職大学院を含め、新たな取り組みとして、社会や産業界から求められる専門的知識・能力や、それを統合して成果に結びつける資質（コンピテンシー）が一段高い「高度職業人」の養成に取り組む。ビッグデータの時代をにらんだデータサイエンスや行政・法務などの研究科横断プログラム、国連・外交コースのような複数分野専攻制等の利用など、研究科の枠を超えた取り組みを推進する。これらにより特定の専門分野に加えて新時代のビジネスに必須となる知識・技能を修得するほか、長期のインターンシップ等の体験を積むこと等を通じて実践力を身に付け、企業から高い評価を獲得する。

こうした大学院で育成する「高度職業人」への需要は、知識基盤社会の進展や、人口減少による生産性向上の必要性、修士・博士学位が重視される海外でのビジネスの増加等に伴って拡大することが予測されるものの、現状では産業界の要望と大学の人材育成の方針が一致しておらずミスマッチが起きている。このため、欧州で進められている、産業界と大学界で人材像や「求められる資質」を調整する「チューニング・プロジェクト」に経済団体等と協力して取り組み、企業との連携を深める中で新たな市場を開拓する。また、こうした取り組みを通して「社会人の学び直し」の需要掘り起しにもつなげ、企業との連携を一層強める。

これら高度職業人養成の検討においては、学士課程と連動し、在学期間を短縮するなどの方策が求められる。

<理系>

理工学研究科においては、研究室の充実が学士課程および大学院の教育、さらには研究活動に大きく影響するため、修士課程での人材の確保は最大の課題である。このため、本大学修士課程への進学率について、一定の目標を定めて層を厚くすることにより、研究室の充実をはかる。研究室の充実により博士課程進学者が増え、結果的に研究者輩出の増加につながる好循環を生み出す。

理系は文系とは異なり、高度職業人養成や研究者輩出に区別することなく学士課程からの連続性で大学院を捉える必要がある。学士課程の1年次における基盤教育を充実させ、学士課程2年次から修士課程の全期間を通して技術系等の就職につながる人材を養成する。

<本大学教員の関学出身者比率>

研究者養成の前提となる優秀な人材の確保においては「出口」におけるキャリアパスの可視化が最も重要な要素の一つである。しかし、博士課程修了後の大学教員としての採用は18歳人口の減少から一層「狭き門」となることが想定される。このため、本大学においても自学出身の研究者を一定程度増やすことも視野に入れる必要がある。競争原理を維持して質の低下を避けることは当然ながら、本大学出身者の構成比率の基準設定や教員の年齢構成の見直し、テニユアトラック制¹¹の活用といった方策の実現可能性を検討する。

¹¹ 教員を任期制で採用し、任期中に業績や資質を見極めた上で審査に合格すれば終身雇用へと移行する制度。